

尊光寺報

第115号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑩

(赤い経本六・七巻)

普放無量無辺光

無礙無対光炎王

清浄歓喜智慧光

不斷難思無称光

超日月光照塵刹

一切群生蒙光照

・阿弥陀さまの十二の光・その三

前々回から阿弥陀さまの十二の光について話をしています。「あまねく、①無量②無辺光③無礙④無対⑤光炎王⑥清浄⑦歓喜⑧智慧光⑨不斷⑩難思⑪無称光⑫超日月光を放ちて塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」とある部分です。今回はそのうちの⑤光炎王と⑥清浄という光の意味を味わいましょう。

⑤「光炎王」とは、「最も輝く光の王様のようである」という意味です。王様ですから、他の仏さまの光よりも優れており、何者にも束縛されることがなく、自由自在に振る舞うことができるということです。また、「炎」はあらゆるものを焼き尽くすはたらきがあります。どのような汚れたものでも炎に焼き尽くされ、清らかな灰に変えるはたらきがあるのです。親鸞聖人は「和讃」(赤い経本四三巻)に、

仏光照曜最第一 光炎王仏となづけたり

三塗の黒闇ひらくなり 大應供を歸命せよ

【阿弥陀仏の光の輝きはもつともすぐれているから、光炎王仏と申し上げる。その光は、三塗(地獄や餓鬼や畜生)という迷いの闇の世界を打ち破る。あらゆる供養を受けるにふさわしい大応供(阿弥陀仏)に帰命(おまかせ)するのがよい。】

と讃えています。阿弥陀という仏さまは、欲にまみれ迷いの世界に落ちている私たちに、二度とそのような苦しみには遭わせぬぞと、自在の光で私たちにはたらきかけ、苦しみの原因である煩惱を炎で焼き尽くそう、任せてくれよと働かれています。そのような仏の頼もしさを表したのが「光炎王」という力強い光なのでしょう。

次の⑥「清浄」とは、「清らかな光」という意味です。

「和讃」(赤い経本四二巻)には、

清浄光明ならびなし 遇斯光のゆへなれば

一切の業繋ものぞこりぬ 畢竟依を歸命せよ

【阿弥陀仏の清らかな光に並ぶものはない。この光に出会うことにより、迷いの世界につなぎとめる悪い行いも、

その力がすべて失われる。究極のよりどころである畢竟依(阿弥陀仏)に帰命(おまかせ)するがよい。】

と讃えられています。清浄とは、ただ清らかなという意味だけではなく、出会ったものを清らかなものに変えていくという意味であることが分かります。放つおけば欲にまみれ、迷いを繰り返すであろう私たちを、清らかな浄土へ迎えよう、煩惱の病をさとり功徳へ変えようというやさしいはたらきを「清浄」の光で表したのでしょう。

今回あじわった「光炎王」と「清浄」という二つの光には、煩惱の病にさいなまれ悩み苦しんでいる私たちを「南無阿弥陀仏」で包み込み、浄土に生まれる時には、その煩惱をさとり功徳へと変えていくはたらきを示したものであります。けんかをした時であろうとも、仏さまの前に座つて手を合わす時には、罵りあつたその口から「なんまんだぶつ」と念仏がでるではありませんか。その時だけでも罵り合っていた心は静まっているのではないのでしょうか。

書院修復工事報告

書院修復工事は本工事を終え、本堂や庫裏との仮設廊下を設置する付帯工事に移った。先日には新調された襖や障子、照明、畳が入り、いよいよその時を待つばかりである。奥の二間には、尊光寺門徒で染織家の秋山精子先生(市場町)の藍染めと柿渋染めの作品を張り込んだ襖を入れた。藍染めの間は落ち着いた雰囲気、柿渋染めの間は斬新なデザインで来訪者を楽しませてくれるだろう。広間は襖を外せば四十八畳となり、大勢が会する場として使用できる。

十二月の報恩講(二十三日の御齋(昼の食事))はこの新しい書院で参拝者の皆様に精進料理のお膳が振る舞われる。どうぞご門徒一同は皆様おそろいで報恩講に参拝ください。



藍染めの間



柿渋染めの間

法要・行事のご案内

尊光寺 報恩講 余興は阿波オーケストラ

【12月22日】午後1時 日中法要

【12月23日】午後6時 大建夜法要・御伝鈔拝読
午前10時 総永代経法要 お昼御齋(食事)
昼12時半 報恩講御満座・御伝鈔拝読
午後3時 コンサート阿波オーケストラ
弦楽四重奏、

〈法話 本願寺派布教使 季平博昭師〉

2016尊光寺報恩講法要記念
♪尊光寺音御堂♪
あわ 阿波オーケストラ
～弦楽四重奏～
12月23日(金・祝)
15:00演奏スタート 入場無料
(12:30からの法要&法話に引き続きコンサート
となさまもご自由にお参りください)
会場 尊光寺 阿波市市場大野島字天神41
本堂 TEL. 0883-36-3026
阿波オーケストラは、10～20代の若い世代を中心に
結成されたアマチュアオーケストラです。2014年に
徳島大学交響楽団第5期生を中心に結成され、演
奏会のたびに団員を再募集していくスタイルで運営
されてきました。約30名で始まったオーケストラも現
在では約60名まで増えました。
今回は少人数での演奏ですが、若い世代のオーケ
ストラという特徴を生かして、元気で、小さなお子様
からお年寄りまで、幅広い年齢層の方々に楽しんで
いただけるような演奏を心がけます。

宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、念仏に出逢えたことを悦ばせて
頂く、一年で一番大切な法要です。お誘い合わせの上、参拝下
さい。なお23日は参拝の皆様(御齋(昼食))を準備してありま
す。※本年度の執行当番は土成東組(藤原・吉田・宮川内・
平間・法林地・浦ノ池)です。よろしくお願い致します。

◎除夜の鐘

【12月31日】午後11時40分頃より

鐘の音とお念仏で来る年を迎えましょう。
どなた様も鐘をつくことができます。

◎「ご本山・大谷本廟参拝団」の募集

今回はご本山「伝灯奉告法要」に参拝します。

約四十年ぶりのご本山の代替わり法要です。

【4月14日、15日 一泊二日】 費用3万5千円。

大谷本廟、本山法要参拝後、奈良宿泊、吉野観光予定。
【4月14日 日帰り】 費用1万5千円。

大谷本廟、本山法要参拝の後、鉄道博物館観光予定。
※申し込みはお早めに尊光寺まで。詳しくは別紙ご案内。
《裏面へつづく》

「報恩講にお参りしましょう」

報恩講（ほうおんこう）とは、宗祖 親鸞聖人（しんらんしょうにん）のご遺徳を偲び、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来によるお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。

報恩講という名前は、親鸞聖人の三十三回忌の法要にあたって、親鸞聖人の曾孫で本願寺第三代の覚如上人が、曾祖父の親鸞聖人の遺徳を仰ぐために『報恩講私記』を作り報恩講を勤めたことに始まります。

とくに、宗祖の命日である一月十六日（旧暦では十一月二十八日）を御正忌（ごしょうき）とよび、本山本願寺では一月九日から十六日まで御正忌報恩講が勤まります。

また浄土真宗の家庭では、本山や各お寺の報恩講に先んじて、「御正忌参り」「報恩講参り」「おとりこし」とお寺によつて呼び名は違えども、その親鸞聖人の遺徳を偲ぶお勤めを各家庭のお仏壇で行います。

報恩講のお供え

報恩講は浄土真宗門徒にとつて一番大切なお勤めです。そのために、お供え物も普段よりも随分と立派なものになります。

尊光寺では、口ウソクは朱色の大きな和蠟燭、花瓶も普段より大きなものになります。お供え物は、串盛りの餅、乾菓子、みかんが恒例です。どれも有志のご門徒によつて準備されます。



尊光寺の串盛りの餅を中心としたお供え物



本願寺のお供え物 餅や昆布、饅頭、銀杏、みかんなど、色づけには金箔も

報恩講の御齋（食事）



尊光寺の新しい書院広間



本願寺の御齋（七品）

報恩講の楽しみの一つとして御齋（食事）があります。

尊光寺【十二月二十三日の昼】では、報恩講参拝の皆様にも、精進料理のお膳が準備されます。献立は一汁三菜（白米・味噌汁・白和え・揚げ）が定番となっておりますが、報恩講お当番の方々によつて、味付けや具材は毎年変化します。今年新しい書院でお膳が振る舞われます。事前申し込み不要ですので、どうぞ気楽にお参りし、伝統のお膳を楽しみましょう。

本山本願寺でも御正忌報恩講期間のうち一月十日、十五日には御齋が振る舞われます。本山では国宝の書院「鴻の間」での接待となります。こちらは前日までの申し込みが必要となります。

通夜布教

本山本願寺の御正忌報恩講では、北境内地の聞法会館において、一月十五日の夜七時より翌朝五時四十分まで、夜を通して布教が行われます。毎年十三人の布教使がリレー形式で一人四十分づつ仏さまの話をしてくださいます。宗祖が往生された日に思いをはせながら、うつらうつら聴聞するのも報恩講の風物詩でしょう。

今年尊光寺住職の娘の嫁ぎ先の若院、加来諭さん（福岡県専広寺）が通夜布教のトリを務めます。加来諭さんの登場は朝の四時五十分から五時半。通夜布教の様子は本願寺ホームページにてインターネット生中継されます。どうぞお聴聞ください。

御絵伝と御伝鈔

親鸞聖人の御一生を絵巻物にしたものが『親鸞伝絵』で、その絵の部分を四幅の掛け軸にしたものを「御絵伝」、詞書きの部分を『御伝鈔』と言い、浄土真宗の寺院では報恩講の際に御絵伝を本堂にかけ、御伝鈔を拝読して宗祖の遺徳を偲びます。



「御絵伝」 親鸞聖人ご往生の場面

『伝絵』の制作者は宗祖の曾孫の覚如上人。三十三回忌の翌年であつたと言われています。昨年より、尊光寺ではスクリーンに御絵伝を大映しにして解説を行っております。本年は第二幅目と第四幅目を拝読し解説します。



「御絵伝」 親鸞聖人が山伏に命を狙われる場面

平成29年 年忌表

1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
25回忌	平成5年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年
61回忌	昭和32年
100回忌	大正7年
150回忌	慶応4年
	明治元年
200回忌	文化15年
	文政元年
250回忌	明和5年
300回忌	享保3年

副住職担当、三木文化センター

徳島教室のご案内

各講座、受講生募集中

6回 半年で13,478円

問い合わせは、徳島駅前NHK文化センター（電話 088-611-6881）

仏教講座「歎異抄」を読む 毎月第2月曜午後1時半、毎月第2金曜午前10時、

仏教講座「御文章」を読む 毎月第2金曜午前10時、

仏教講座「伝絵で学ぶ親鸞聖人」 4月22日より開講予定

所在地/770-0832 徳島市寺島本町東3-13-1 徳島駅前 濱口ビル8F

NHK文化センター 徳島教室（徳島駅前濱口ビル8F）（ダイワロイネットホテルとなり）

平成29(2017)年

ご本山&大谷本廟参拝団 募集

ご門徒の皆様におかれましては尊光寺の護寺にご協力頂きお礼申し上げます。さて、ご本山(西本願寺)・大谷本廟(納骨所)参拝団は下記の通り実施いたします。年に一度の団体参拝ですので、このご縁に参拝なされますようご案内申し上げます。本年は本願寺の伝灯奉告法要(ご門主の代替わり法要)に参拝します。
記

■ 一泊二日 (4月14日(金)～4月15日(土) 費用3万5千円/30名まで)

大仏スカイトラベル6:00出発⇒市場⇒八幡⇒土成⇒鴨島⇒石井⇒徳島⇒淡路⇒大谷本廟10:00着(納骨)⇒(時間によって青蓮院拝観)⇒京都東急ホテル(昼食:日本料理たん熊)⇒西本願寺(法要参拝、書院拝観)16:00出発⇒奈良ロイヤルホテル(宿泊)⇒吉野山千本桜⇒粉河寺⇒淡路(夕食)⇒帰路⇒大仏20:30

※前回の案内では、白浜宿泊予定でしたが、時間の都合により不可能となりました。

■ 日帰り (4月14日(金) 費用1万5千円/60名まで)

大仏スカイトラベル6:00出発⇒(1泊と同じく各地)⇒大谷本廟10:00着(納骨)⇒(時間によって青蓮院拝観)⇒京都東急ホテル(昼食:日本料理たん熊)⇒西本願寺(法要参拝、書院拝観)16:00出発⇒鉄道博物館17:30出発⇒淡路(夕食)⇒帰路⇒大仏21:30

※ 大谷本廟に納骨(分骨)を希望の方は申し出下さい。

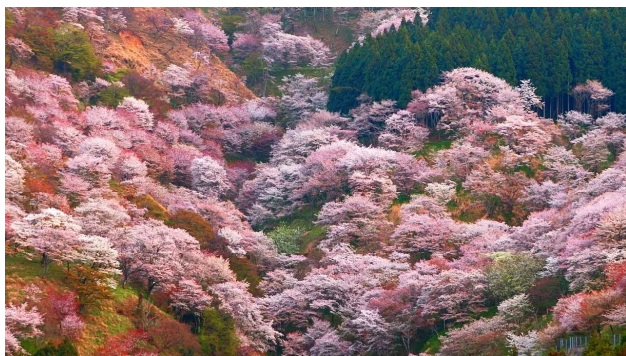
※ 行程は天候や時間等により変更になることもあります。また観光等の希望があれば申し出下さい。

※ お部屋などの希望がある場合は申し出下さい。

申込先:尊光寺(0883-36-3026)



本願寺飛雲閣



吉野千本桜(イメージ)

尊光寺 宗祖親鸞聖人



御正忌報恩講法要

御正忌報恩講法要 日程

◆12月22日(木)◆

昼 1時 報恩講法要 法話

夜 6時 大逮夜法要 御伝鈔^{ごでんしやう}拝読 法話

◆12月23日(金・祝)◆

朝 10時 門徒総永代経^{なりび}に戦没者追悼法要 法話
随時 お齋(食事)

昼 12時半 報恩講ご満座法要
御伝鈔^{ごでんしやう}拝読 法話

(本年の法話講師 本願寺派布教使 季平博昭師)

昼 3時 コンサート阿波オーケストラ

ほうおんこう
- 報恩講とは -

報恩講は宗祖親鸞^{しんらん}聖人のご命日(ご正忌)をご縁として、宗祖のご恩をしのび、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のお救いを心に深く味わわせていただく法要です。正しくお念仏のいわれを聞かせていただき、身にいただいて、真実信心の行者になることが聖人のご恩に報いる道であり、この法要は浄土真宗門徒にとって最も大切なお勤めです。

親鸞聖人のご命日は弘長2年11月28日(西暦1263年1月16日)であり、尊光寺では12月22日・23日にお勤めいたします。

ごでんしやう
- 御伝鈔^{ごでんしやう}拝読 -

本願寺第3代覚如上人は、親鸞聖人のご遺徳を讃仰するために、その生涯の業績を文章と絵で交互に描いた絵巻物をつくられました。後に多くの方々にご覧いただけるようにと、文章と絵が分けられ、それぞれ『御伝鈔^{ごえでん}』『御絵伝』と呼ばれるようになります。

報恩講の折に、この「御絵伝」(四幅)を南余間にお掛けし、『御伝鈔』を拝読して宗祖のご生涯をしのばせていただきます。



とき
- お齋 - (23日お昼の食事)

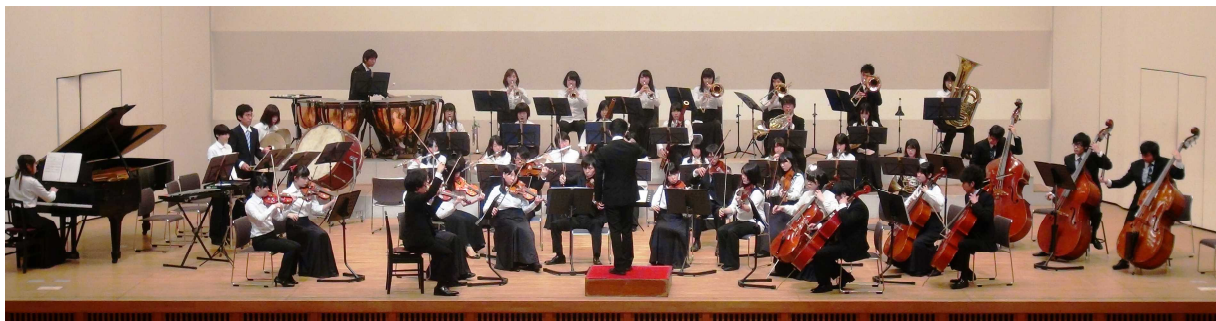
尊光寺では報恩講参拝のお接待として、皆様に精進料理が当番より支度されます。どうぞ伝統のお膳にお着きください。

仏教では「食事^{じきじ}」と呼ばれる午前10時から正午までの間に食事をする習わしがあり、このときに出る精進料理を「齋^{とき}」といいます。

- 執行当番 -

本年(28年)は【土成東組(藤原・吉田・宮川内・平間・法林地・浦ノ池)】です。よろしくお願いいたします。

そんこうじおとみどう
♪ 尊光寺音御堂 ♪
あ わ
阿波オーケストラ
～弦楽四重奏～



12月23日（金・祝）

15：00演奏スタート 入場無料

（12：30からの法要&法話に引き続き コンサート
どなたさまもご自由にお参りください）

そんこうじ
会場 尊光寺 阿波市市場町大野島字天神41
本堂 TEL 0883-36-3026



阿波オーケストラは、10～20代の若い世代を中心に結成されたアマチュアオーケストラです。2014年に徳島大学交響楽団第51期生を中心に結成され、演奏会のたびに団員を再募集していくスタイルで運営されてきました。約30名で始まったオーケストラも現在では倍の約60名まで増えました。

今回は少人数での演奏ですが、若い世代のオーケストラという特徴を生かして、元気で、小さなお子様からお年寄りまで、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるような演奏を心がけます。